

8月の中小企業月次景況調査(茨城県)

〔令和5年8月末現在〕

令和5年9月13日
茨城県中小企業団体中央会

全体で、「景況」、「売上高」、「収益状況」の主要3指標DIを見ると、全てで悪化した。

業種別では、「景況」は非製造業では悪化した。製造業は変化がなかった。「売上高」は製造業と非製造業ともに悪化した。「収益状況」は非製造業では悪化した。製造業は改善した。

幅広い業界で引き続きエネルギーや原材料等の価格高騰による収益確保が厳しいという報告が多く見られた。また、食料品を取り扱う業界からは猛暑による出荷量や収穫量の減少、需要減少などの報告や福島第1原発の処理水海洋放出に対しての今後の影響について不安視する報告が見られた。

景況DI

製造業は、前月比増減なしの▲38.5ポイント、非製造業は、前月比25.0ポイント悪化の▲20.8ポイント、全体では、前月比12.0ポイント悪化の▲30.0ポイントとなった。

売上高DI

製造業は、前月比23.1ポイント悪化の▲30.8ポイント、非製造業は、前月比20.9ポイント悪化の8.3ポイント、全体では、前月比22.0ポイント悪化の▲12.0ポイントとなった。

収益状況DI

製造業は、前月比3.9ポイント改善の▲26.9ポイント、非製造業は、前月比8.4ポイント悪化の▲29.2ポイント、全体では、前月比2.0ポイント悪化の▲28.0ポイントとなった。

茨城県中央会では、中小企業を取り巻く様々な環境の変化の下で、中小企業の発展を確保していくために中小企業の動向、問題点、要望等を機敏かつ的確に把握するために、中小企業で構成されている事業協同組合等の中小企業団体に情報連絡員を設置し、最新の「景況、売上高、収益状況、販売価格、取引条件」などの景気動向調査を実施しております。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和5年8月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製 造 業	食料品	学校給食パン	本年の茨城県の地方最低賃金は前年比4.61%増の953円に決定した。42円アップは上昇幅も過去最大。企業の性質・企業規模に関係なく一律での適用は中小企業の経営を圧迫する。学校給食業者はコスト増加分を価格・加工賃などに反映させにくいため、ますます先細りになり学校給食自体が成り立たなくなっていく。
		清酒	○県内全体の課税移出数量・業界全体の現状 当県7月の清酒課税移出数量は、対前年同月比96.3%であった。本格焼酎については、対前年102.0%であった。本格焼酎は清酒の5.6%の数量なので酒蔵の経営に及ぼす影響は限定的である。4月より4ヶ月連続の対前年割れであった。新型コロナウイルスが5類に引き下げられ、国民の日常がコロナ禍前に戻りつつあり、酒の消費も上向くと期待したが、4ヶ月連続で前年を下回ると現在の状況が実力であり、マイナスは一過性ではないと考えられる。賃金アップも実施されているが、国民の金の使い方がコロナ禍により変化したと思われる。 ○県内当業界について 茨城県庁にて令和5年6月に実施した一般消費者に対しての酒類アンケート調査の結果、酒を飲む人の中で茨城の地酒を1回も飲んだことの無い人が34%もいた。改めて県内においての地酒の認知の低さを思い知らされた。
		納豆	土産品業界はお盆の帰省シーズンを迎えて売上高増加が期待されたものの、販売数量自体は前年同月程度であり、売上は昨年12月からの値上げの効果を加えても微増もしくはほぼ横ばい程度であり、コロナ禍前には程遠い状況である。ただし値上げにより収益自体は好転しているが、それでも大きく増益とまでは言えない状況である。また量販店向け商品も特に伸びは感じられず、値上げのタイミングと値上げ幅により収益等は各社バラバラの状況である。資金繰り等その他の経営環境は概ね前月と変わりなく、全体的には値上げによる収益好転が見られるものの、一方において業界全体の閉塞感は依然強いままであり、加えて8月24日から開始された福島第一原発処理水の海洋放出の影響が懸念される。
		菓子	店舗販売の売上高は減少傾向。しかし、イベントや催事などがコロナ禍から復活しており、イベントに参加することで売上を保っている。菓子業界は、この暑さも売上不振に影響していると思う。
		漬物	猛暑の影響が続いており、浅漬け製造業者は売上高が極度に落ち込んでいる企業もある。消費者は暑すぎて食欲もなくなるのか。異常気象はいつまで続くのか。 原材料野菜を栽培している組合員も水不足・猛暑の影響を受け収穫が読めない。また、大根の種が手に入らず種まきができず品種を変える必要が生じた組合員もいて、今まではこのようなことはなかった。何十年も取り扱った品種の種が手に入らず、来年は全くないと聞いている。販売先があって作っているため、品種が変わると仕様書からすべて変わる。原材料（大根）を作っている組合員には大打撃である。
	繊維工業	県北地区外衣シャツ	受注等に変化はなかった。
	木材・木材製品	製材	・国産材の価格は横ばいだが、弱含みで推移した。 ・外材も荷動きは低調で、価格も持ち合いで推移した。今後、山火事の影響が懸念される。 ・原木は杉、桧の柱材が値上がりしたが中材材は低価格で推移した。
		県北地区プレカット	月間加工坪数は目標の50%を達成。9月の加工予定は下旬にやや空きがあるが、ほぼ埋まっている。材料費（木材）は未だに底値を維持しているようだ。
		県央地区プレカット	8月は夏季休暇もあり、稼働日数が少ない中で工場は忙しい状況となった。しかし、8月の見積物件数は減少。今後、年末の加工に影響が生じそうである。
	紙・紙加工品	段ボール	売上高が前年より悪化している組合員が多く、世の中の荷物の移動が低調であることになるとかと思う。人件費の上昇や副資材等の値上がりも現在でも続いており収益が悪くなっている。最近ではコロナ融資の返済をどうしようかという話が多く聞かれている。人々が電気代、その他生活必需品や食料等が値上がりした分、他の消費にお金がかえらずコロナ禍前より消費はかなり落ちているように感じている。また、仕入材料が上がっても客先も厳しいという理由でなかなか価格転嫁できず厳しい状態が続いている。
	印刷	総合印刷	ここにきて「4年ぶりにコロナ禍前の規模でイベント開催」と連日報道されるなど、世間全体が活気を取り戻してきており、印刷物の需要面でもプラス要因として捉えている。しかし、例年この時期は印刷物の需要が少なく、紙・インキ等の印刷資材の値上がりを考慮した適正な価格転嫁が難しく、資金繰り等で厳しい状況にある。
	化学・ゴム	自動車部品	10月からの最低賃金アップにより経営に影響が生じると考えられる。
	窯業・土石製品	コンクリート製品	茨城県土木部の資材単価のうち、長尺U字溝、長尺U字溝用蓋、深溝側溝等は物価調査会社2社の平均値を採用している。9月号では両社値上げとなり、平均は約12～18%増となったが、土木部の適用は10月1日になる見込み。
		陶磁器	例年通り8月は客足が鈍い。秋のイベントの準備がこれからなので、活気が戻ってくるだろう。皆さんに満足していただけるよう精一杯お迎えしていきたいと思う。
	鉄鋼・金属	鉄鋼	今月の売上高等は前年比と同程度であった。設備の操業度についてはお盆の連休を10日前後と長く取った得意先が多く、月半ばまでは操業度が比較的低かった。原材料は全ての金属及び薬品関係は値上がりしている。燃料並びに石油製品についても高値の状況である。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和5年8月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
製造業	一般機器	生産用機械	対象7組合員（製造会社）の売上高の状況は前年同月比で2社増加、5社減少であった。団地全体の売上高は、夏季休業日の増加に伴う主要取引先からの受注が減少したことを主要因として減収となった。組合員の従業員は正社員は増加しているが、派遣社員の減少により前年同月比減少となった。
	輸送用機器	県北地区自動車部品	売上高は一部に減少傾向もみられたが、予測の範囲内で影響を及ぼすものではない。しかし、材料費の高止まりが継続しているため、収益を圧迫している。
非製造業	卸売業	生鮮魚介	精算所取引高は前年同月比101.15%。取扱高は前年を上回ったものの、商品単価の上昇、電気料金など全ての経費が値上げし、卸売業者・仲卸業者・買受人など全ての業者が厳しい状況である。8月24日に始まった福島第一原発の処理水海洋放出の影響が鮮魚等の荷動きにどのように影響が出てくるのか、不安視する声が多く聞かれる。
		米麦	5年産米の集荷が始まり、概算金は前年産より15%ほど値上がりしたが、生産コストの高騰、高温障害等による品質低下や減収のため厳しい状況。
		袋セメント	袋セメントの7月出荷数量は31千袋、前年同月比111.8%の実績。県西での物流倉庫案件はひと段落したが、圏央道4車線化工事に係る案件が好調で前年同月比増加となった。
	小売業	県北地区共同店舗	売上高は前月同月比97.4%、客数は同106.8%、前年同月の売上高を確保できた店舗は21%となった。館内空調機が故障し、2階の一部が非常に暑い状況になってしまった要因もあると考える。9月から昨年同様に地域振興プレミアム付商品券も始まるので期待したい。
		県央地区共同店舗	館全体の既存店の売上高（客数）は、前年同月比103%（101%）となり、前年同月よりも少し増加。 主要業種：食品106%（101%）、飲食107%（107%）、ファッション124%（104%） 8月は地域の盆踊り花火大会の駐車場協力や施設の夏祭りを開催し来店者数（売上）増加を図った。夏祭りでは10年ぶりにキャラクターショーを開催し、2回開催で約2000名の来場があった。収益状況については、電気料金、備品代、チラシ作成費などが値上がりしており、収益を圧迫している。
		県南地区共同店舗	・食品（スーパー）は客数減少、売価上昇、売上高微減。 ・衣料は売上増加。夏物の処分が進んだ。 ・ドラッグストアは売上不変。 ・ファストフード店等の食品は売上増加。売価も上昇。
		家電	売上高はA V家電が不調、白物家電は好調。全体は前年並みの推移。また、国全体の小売りが約7割値上げし、家電は耐久商品分類のためか伸び悩む状況となった。
		燃料	政府の燃料油価格激変緩和策が減少していること、原油価格の上昇、円安等の要因により、燃料の小売価格は上昇し、8月末にはガソリンの最高値を記録した。これにより、消費者の買い控えが起きると予想される。また、政府は同補助金を年末まで延期すると決定したが、依然として高い価格（10月に175円程度）になる予想なので、小売価格への転嫁、販売数量の減少と厳しい状況が続くものと予想される。
		中古自動車	8月の販売価格は前年同月比120.1%で1台当たりの単価が約31万円増加したが、販売台数が同79.6%と大きく減少したため、売上高は前年同月を下回った。物価高騰による家計圧迫からか、車両の代替えを断念し、継続車検を受けるユーザーも少なくない。また、大手中古車販売店の不祥事も依然収まっておらず、中古車販売業界に対して不信任感を持つ消費者が増えている。10月から適用が始まる中古車販売価格「支払総額表示」が信頼回復の足掛かりになることが期待される。
		食料品	当組合は食品流通業であり、組合員の売上に関しては、新型コロナウイルスの中で食のライフラインを担っている。8月の売上高は前年同月比で102%となり、7か月連続で前年超えを達成した。来店客数も前年比100%と前年を維持したことが主要因と考えられる。部門ごとの売上は前月に引き続き、8月も青果部門、惣菜部門、日配品、一般食品の飲料が前年同月比を上回ることができたのが大きな要因である。特に豆腐、納豆、チルド麺等の日配品が前年同月比110%と大きく伸びた。今夏の猛暑の影響で飲料、涼食が大きく伸びた。しかしながら、鮮魚部門は前月に引き続き前年割れとなったため、早急に対策を講じる。
		野菜・果実	8月は野菜果実合計で前年同月比105.0%の取扱高となった。全国的な猛暑と降雨不足の影響により多くの品目で品質低下や出荷減を招き、相場は高値で推移した。果実に関しては、お盆の需要により引き合いを伸ばしたが、市場内では梨やスイカの売り先に困っている様子も見られた。
	商店街	水戸	引き続き、人手不足、原材料高騰、水道光熱費の上昇が続いている。
		筑西	特に変化はなかった。

報告者名
報告年月

茨城県中小企業団体中央会
令和5年8月

情報連絡一覧票

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	サービス業	自動車整備	組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数（持込検査）の対前年同月比は、軽自動車 は若干の減少が見られるものの、全体としては車両入庫台数はほぼ横ばいである。
		旅館、ホテル	夏休み期間中の各イベント等の開催等に伴いファミリー層が増加したほか、中学生等の各種ス ポーツ大会（陸上大会、東日本軟式野球大会等）の開催により、県外からの個人客や団体客が増 加した。なお、海水浴場が開設されなかった地域もあり、地域のイベント等の開催状況等の有無 により、売上が増加しない地域もあった。一方、人件費や水道光熱費等の経費が増加しており、 収益はこれまでと同様にあまり変わらない。
	建設業	総合	長年継続して発注されてきた小中学校の耐震化、トイレの乾式化、洋式化等の工事が完了し学校 関係の工事が大幅に減少したため各社7・8月の建築工事の受注はほぼゼロであった。非常に厳 しい状況である。
		県北地区管工事	組合への新規加入希望者が1社あり。9月の理事会で決議し、10月より加入予定。
	運輸業	軽貨物自動車	当月の組合員数は106名、車輛台数は136台で前月と比較して組合員数増減なし、1台減少であ った。また、運送売上高については、前年同月比90.2%であった。全国連合会での当月の組合員数 は6,421名、車輛台数7,616台で前月と比較して36名減少、62台減少であった。
		一般貨物自動車	主要顧客の発送物量は、例年と同様に夏季休暇により減少し、トラックの稼働も夏季休暇とな り、売上高も例年と同様に減少した。燃料価格についてはさらに大幅に値上がりし、大変厳しい 状況となっている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	学校給食パン	学校給食におけるパン給食回数増要望
	納豆	8月24日より福島第一原発の処理水放出が開始され、隣県の事であるので何らかの影響が出る ことを警戒している。それに対する対策を含めて、消費拡大の方策を期待したい。特に土産物業 界は観光需要が主であるため10月からの旅行支援が待ち遠しい。またコロナ融資の返済に対す る支援、緩和措置も引き続き要望したい。
小売業	県央地区共同店舗	協同組合や店舗が活用できる補助金や助成金、またイベントで活用できる補助金などの情報や事 例を教えて欲しい。また、県内で活動をPR希望の組合や団体様を紹介して頂けると幸いです。
	県南地区共同店舗	電気料金のアップは大変厳しい。
	燃料	揮発油税に課税している二重課税の廃止 燃料油価格激変緩和策の継続（12月末で終了予定）と出口戦略の明確化 物価上昇への対応
建設業	総合	働き方改革で土日出勤及び残業は減ったが入札の最低制限価格落札による受注も常識化したため 実質的に給与アップになっていない。若者の建設業界入職希望者は増加する兆しがみえない。ま だまだ賃金が低いからである。小学生等の子供を持つ30代の親は休日よりも休日出勤手当、残業 手当のほうが魅力的なのかもしれない。働き方改革の内容の見直しも必要と考える。

月次景況調査 8月のD I（前年同月比）

項 目	全 体			製 造 業			非 製 造 業		
	8月	7月	前月比	8月	7月	前月比	8月	7月	前月比
景 況	▲ 30.0	▲ 18.0	▲ 12.0	▲ 38.5	▲ 38.5	0.0	▲ 20.8	4.2	▲ 25.0
売 上 高	▲ 12.0	10.0	▲ 22.0	▲ 30.8	▲ 7.7	▲ 23.1	8.3	29.2	▲ 20.9
収 益 状 況	▲ 28.0	▲ 26.0	▲ 2.0	▲ 26.9	▲ 30.8	3.9	▲ 29.2	▲ 20.8	▲ 8.4
販 売 価 格	38.0	38.0	0.0	15.4	23.1	▲ 7.7	62.5	54.2	8.3
取 引 条 件	▲ 10.0	▲ 12.0	2.0	▲ 11.5	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 8.3	▲ 16.7	8.4

中小企業月次景況調査(令和5年8月)DI値(前年同月比)

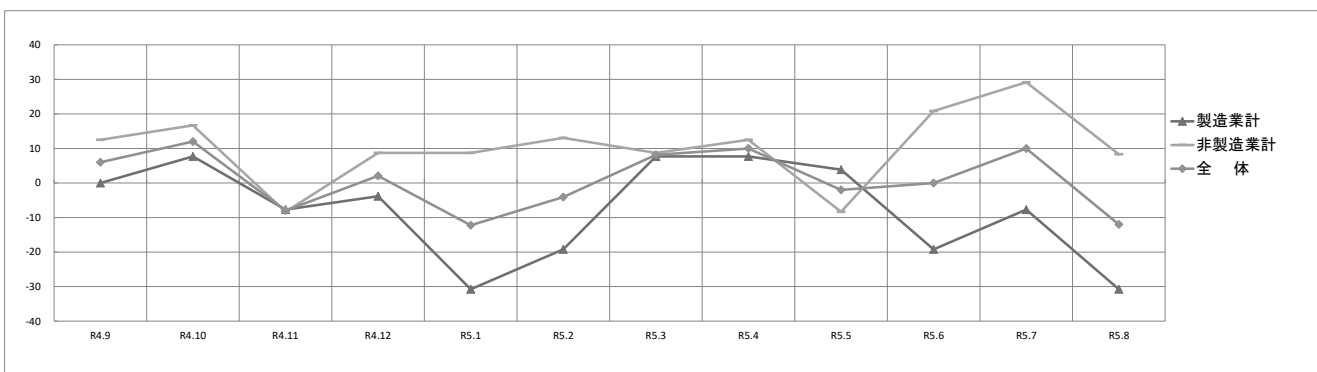
		売上高				在庫数量				販売価格				取引条件				収益状況				資金繰り				設備操業度				雇用人員				業界の景況												
		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)		D I		(内 訳)														
製造業	食料品	△ 33.3	0	4	2	6	16.7	1	5	0	6	33.3	2	4	0	6	△ 16.7	0	5	1	6	0.0	1	4	1	6	△ 33.3	1	2	3	6	0.0	1	4	1	6	△ 16.7	0	5	1	6	△ 33.3	0	4	2	6
	繊維工業	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	△ 66.7	0	1	2	
	木材・木製品	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3					
	紙・紙加工品	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	印刷	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1					
	化学・ゴム	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1
	窯業・土石製品	△ 40.0	0	3	2	5	0.0	0	5	0	5	40.0	2	3	0	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 80.0	0	1	4	5	△ 20.0	0	4	1	5	△ 60.0	0	2	3	5	0.0	0	5	0	5	△ 60.0	0	2	3	5
	鉄鋼・金属	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1
	一般機器	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	△ 100.0	0	0	1	1	0.0	0	1	0	1
	電気機器	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1	0.0	0	1	0	1	100.0	1	0	0	1	0.0	0	1	0	1
	輸送機器	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	1	1	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	△ 33.3	0	2	1	3	33.3	1	2	0	3	△ 33.3	0	2	1	3
	製造業計	△ 30.8	0	18	8	26	0.0	2	22	2	26	15.4	6	18	2	26	△ 11.5	1	21	4	26	△ 26.9	2	15	9	26	△ 23.1	1	18	7	26	△ 19.2	1	19	6	26	△ 3.8	2	21	3	26	△ 38.5	0	16	10	26
非製造業	卸 売 業	66.7	2	1	0	3	0.0	0	3	0	3	100.0	3	0	0	3	0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	0.0	0	3	0	3					0.0	0	3	0	3	△ 33.3	0	2	1	3	
	小 売 業 (商店街含む)	16.7	5	4	3	12	△ 8.3	0	11	1	12	75.0	9	3	0	12	△ 16.7	0	10	2	12	△ 41.7	0	7	5	12	△ 25.0	0	9	3	12					△ 16.7	0	10	2	12	△ 16.7	1	8	3	12	
	サービス業	50.0	1	1	0	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0	0	1	1	2	0.0	0	2	0	2	△ 50.0					0	1	1	2	△ 50.0	0	1	1	2		
	建 設 業	△ 40.0	0	3	2	5					20.0	1	4	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0	0	5	0	5	0.0					0	5	0	5	△ 20.0	0	4	1	5		
	運 輸 業	△ 50.0	0	1	1	2					50.0	1	1	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0	0	2	0	2	0.0					0	2	0	2	0.0	0	2	0	2		
	非製造業計	8.3	8	10	6	24					△ 6.7	0	14	1	15	62.5	15	9	0	24	△ 8.3	0	22	2	24	△ 29.2	0	17	7	24	△ 12.5					0	21	3	24	△ 12.5	0	21	3	24	△ 20.8	1
全 体		△ 12.0	8	28	14	50	△ 2.4	2	36	3	41	38.0	21	27	2	50	△ 10.0	1	43	6	50	△ 28.0	2	32	16	50	△ 18.0	1	39	10	50	△ 19.2	1	19	6	26	△ 8.0	2	42	6	50	△ 30.0	1	33	16	50

D I 値推移表 (R4. 9月 ~ R5. 8月期)

《売上高の推移》

前年同月比	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3	R5. 4	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8
食料品製造業	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 33.3	33.3	33.3	▲ 33.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 33.3
製造業(食料品製造業以外)	10.0	15.0	▲ 5.0	10.0	▲ 30.0	▲ 15.0	0.0	0.0	15.0	▲ 5.0	▲ 5.0	▲ 30.0
製造業計	0.0	7.7	▲ 7.7	▲ 3.8	▲ 30.8	▲ 19.2	7.7	7.7	3.8	▲ 19.2	▲ 7.7	▲ 30.8
卸売業	66.7	0.0	▲ 66.7	0.0	▲ 33.3	0.0	0.0	▲ 66.7	0.0	66.7	66.7	66.7
小売業(商店街含む)	▲ 8.3	0.0	▲ 8.3	0.0	27.3	0.0	9.1	16.7	▲ 25.0	8.3	16.7	16.7
サービス業	50.0	50.0	50.0	50.0	▲ 50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
建設業	0.0	40.0	▲ 20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	20.0	▲ 40.0
運輸業	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	50.0	▲ 50.0
非製造業計	12.5	16.7	▲ 8.3	8.7	8.7	13.0	8.7	12.5	▲ 8.3	20.8	29.2	8.3
全 体	6.0	12.0	▲ 8.0	2.0	▲ 12.2	▲ 4.1	8.2	10.0	▲ 2.0	0.0	10.0	▲ 12.0

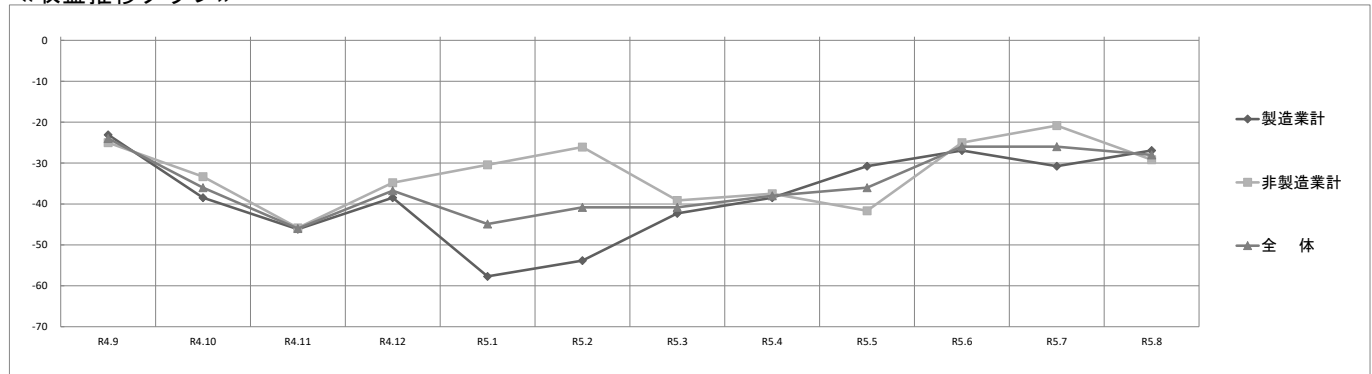
《売上高推移グラフ》



《収益の推移》

前年同月比	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3	R5. 4	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8
食料品製造業	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 83.3	▲ 83.3	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0
製造業(食料品製造業以外)	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 45.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 35.0
製造業計	▲ 23.1	▲ 38.5	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 57.7	▲ 53.8	▲ 42.3	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 26.9	▲ 30.8	▲ 26.9
卸売業	0.0	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 66.7	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3
小売業(商店街含む)	▲ 25.0	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 36.4	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 45.5	▲ 41.7	▲ 41.7	▲ 50.0	▲ 16.7	▲ 41.7
サービス業	0.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 50.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	▲ 100.0	0.0	▲ 100.0	▲ 50.0
建設業	▲ 40.0	0.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0	▲ 20.0	20.0	0.0	0.0
運輸業	▲ 50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非製造業計	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 45.8	▲ 34.8	▲ 30.4	▲ 26.1	▲ 39.1	▲ 37.5	▲ 41.7	▲ 25.0	▲ 20.8	▲ 29.2
全 体	▲ 24.0	▲ 36.0	▲ 46.0	▲ 36.7	▲ 44.9	▲ 40.8	▲ 40.8	▲ 38.0	▲ 36.0	▲ 26.0	▲ 26.0	▲ 28.0

《収益推移グラフ》

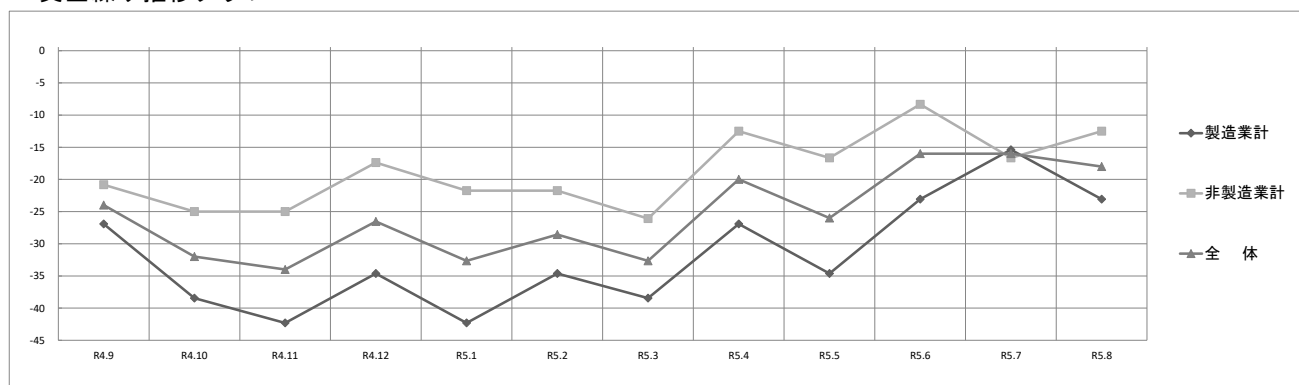


D I 値推移表 (R4. 9月 ~ R5. 8月期)

《資金繰りの推移》

前年同月比	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3	R5. 4	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8
食料品製造業	▲ 50. 0	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 50. 0	▲ 83. 3	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 33. 3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20. 0	▲ 30. 0	▲ 35. 0	▲ 25. 0	▲ 35. 0	▲ 25. 0	▲ 30. 0	▲ 20. 0	▲ 20. 0	▲ 15. 0	▲ 10. 0	▲ 20. 0
製造業計	▲ 26. 9	▲ 38. 5	▲ 42. 3	▲ 34. 6	▲ 42. 3	▲ 34. 6	▲ 38. 5	▲ 26. 9	▲ 34. 6	▲ 23. 1	▲ 15. 4	▲ 23. 1
卸売業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
小売業(商店街含む)	▲ 25. 0	▲ 41. 7	▲ 41. 7	▲ 27. 3	▲ 27. 3	▲ 27. 3	▲ 36. 4	▲ 16. 7	▲ 25. 0	▲ 16. 7	▲ 25. 0	▲ 25. 0
サービス業	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	▲ 50. 0	0. 0
建設業	▲ 20. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
運輸業	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
非製造業計	▲ 20. 8	▲ 25. 0	▲ 25. 0	▲ 17. 4	▲ 21. 7	▲ 21. 7	▲ 26. 1	▲ 12. 5	▲ 16. 7	▲ 8. 3	▲ 16. 7	▲ 12. 5
全 体	▲ 24. 0	▲ 32. 0	▲ 34. 0	▲ 26. 5	▲ 32. 7	▲ 28. 6	▲ 32. 7	▲ 20. 0	▲ 26. 0	▲ 16. 0	▲ 16. 0	▲ 18. 0

《資金繰り推移グラフ》



《景況の推移》

前年同月比	R4. 9	R4. 10	R4. 11	R4. 12	R5. 1	R5. 2	R5. 3	R5. 4	R5. 5	R5. 6	R5. 7	R5. 8
食料品製造業	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 33. 3	▲ 16. 7	▲ 16. 7	▲ 16. 7	▲ 33. 3	▲ 33. 3	▲ 50. 0	▲ 33. 3
製造業(食料品製造業以外)	▲ 20. 0	▲ 25. 0	▲ 25. 0	▲ 20. 0	▲ 40. 0	▲ 25. 0	▲ 35. 0	▲ 30. 0	▲ 20. 0	▲ 35. 0	▲ 35. 0	▲ 40. 0
製造業計	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 30. 8	▲ 26. 9	▲ 38. 5	▲ 23. 1	▲ 30. 8	▲ 26. 9	▲ 23. 1	▲ 34. 6	▲ 38. 5	▲ 38. 5
卸売業	0. 0	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 66. 7	▲ 33. 3	▲ 33. 3	0. 0	▲ 33. 3
小売業(商店街含む)	▲ 50. 0	▲ 25. 0	▲ 33. 3	▲ 27. 3	▲ 9. 1	▲ 18. 2	0. 0	▲ 16. 7	▲ 33. 3	▲ 25. 0	8. 3	▲ 16. 7
サービス業	0. 0	0. 0	▲ 50. 0	▲ 50. 0	▲ 100. 0	▲ 100. 0	▲ 100. 0	0. 0	50. 0	50. 0	0. 0	▲ 50. 0
建設業	▲ 20. 0	0. 0	0. 0	▲ 20. 0	20. 0	0. 0	0. 0	0. 0	20. 0	0. 0	0. 0	▲ 20. 0
運輸業	▲ 50. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0	0. 0
非製造業計	▲ 33. 3	▲ 20. 8	▲ 29. 2	▲ 30. 4	▲ 17. 4	▲ 26. 1	▲ 17. 4	▲ 16. 7	▲ 12. 5	▲ 12. 5	4. 2	▲ 20. 8
全 体	▲ 28. 0	▲ 26. 0	▲ 30. 0	▲ 28. 6	▲ 28. 6	▲ 24. 5	▲ 24. 5	▲ 22. 0	▲ 18. 0	▲ 24. 0	▲ 18. 0	▲ 30. 0

《景況推移グラフ》

